



~男の夢☆女の敵~

チヨビひげとボイン

「おいらおいら、聞かされたのか〜?」

も　もう…こんなこと
終わりにして下さい…

「サツサと服を脱いでこっちにケツを向ける!」



…あ、

や…
あ

もみま

「今日も一日あのがきどもにこき使われて
ストレス溜まってんだ!! 早くしやがれっ!」

「おまえさんが脱がねえってんなら
オレ様が無理矢理脱がしてやるか?」

「おまえさんのも嫌じゃならせえ〜!」

もみま

わわたしは
そんなつもり…

…わたしの胸が
目障りでしたのなら
謝ります…

もみぢ

「男の真剣な職場をこんないやらしい乳を
ぶるんぶるんさせながらウロチヨロしやがって」

「本当は欲求不満でムラして
メチャクチャにさわって
ほしかったたるお？」

もみぢ



「ぶっっっ
いい匂いだぜえ」

ふあ…ん はあ

んぐ…
んぐう

んぐう

んぐうんぐうんぐう

…ほ 本当にこれで
地球への航路を…確保
して頂けるんですね…

「ちっさまでのイヤなこと
みくんな忘れちまう…!!
おっばいってヤツあ大したもんだ」



はあはあ：
当たり前だろ！！
オレはただの一度も
約束を破ったことは
ねえっつっつ！！

あははは

あははは

あははは

あははは

はあはあ
…んああ

あははは

あははは

信用できねえってんなら
他を当たりな！
まああのガキども達と
アンタだけじゃあ
どうしようもねえ
だろうがな！！

「わかったら
とつとつと
パンツ下げる！」

…もう一度
確認させて下さい

あなたの言うことを聞けば
地球への航路は必ず確保して
くださるんですね…？

「疑り深いオシナだな
安心しな、もうハナシは
着けておいた！」

成程

「何度も言わせるな！
オルクス商会には
もう話は通してある」

「オレ様とオルクスと
昔馴染みなんだよ！
間違いはねえっ」

んあ…っ

は…っ

アッ

アッ

アッ

アッ

はっ

はっ

は…っ

「ん…っ」
「おれ様の胸を揉むぞや
…おれ様だっ」

「ぜんぜん濡れてこねえ??
お嬢様は不感症かあ〜??」

ひくうっ

いつ…痛い!!

おねえ〜♡

おねえ〜♡

「時間がねえから
もうフチ込ませ!」

ズッ
ッ
ッ

ズッ
ッ
ッ



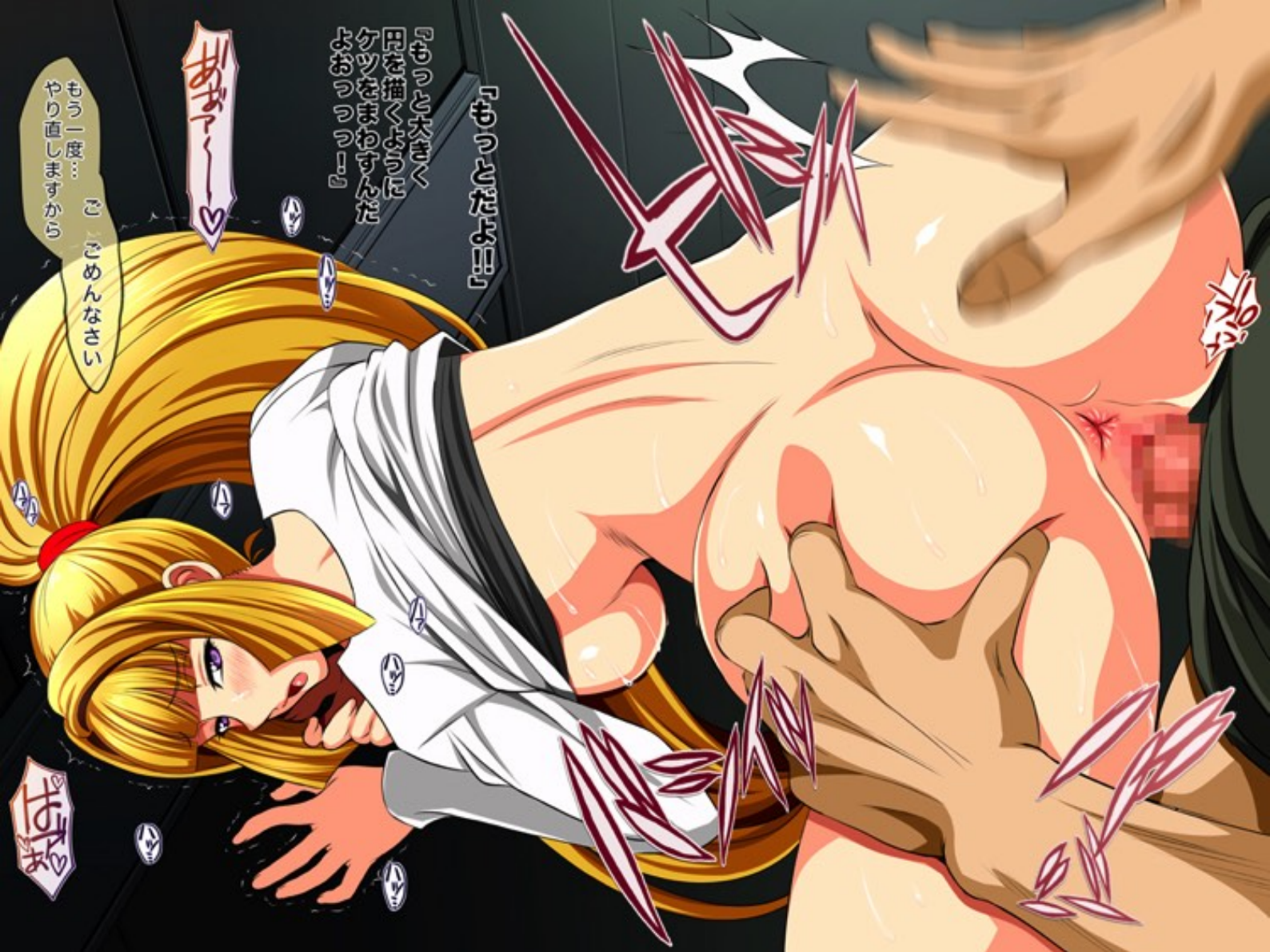
「いい加減もっとなんていい声で
鳴いたらどうだ？」

ひびくっ！
…うっうっ！

「本当は気持ちよくな
ってんだろっ？」







おっつ

「さっさと大きく円を描くようにケツをまわすんだよおっつっ!」

「さっさとだよ!!」

もう一度... ごめんなさい
やり直しますから

はっ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

おっつ

「なあ、どっかがいちばん感じるんだ？」

そ…それは

……胸が

乳首が…
感じやすい
……です

「クーデリア・藍那・パーンスタイン
お嬢様はどこがいちばん感じるんだと
聞いてるんだよ」



わわたしは… わたし… は
クーデリア・藍那・パーンスタインは
オナニーが大好き… です！

はぁ
あぁ

あぁ
はぁ

「いえ！ ウソでも言え!!
クーデリア・藍那・パーンスタインは
オナニー大好きだって言うんだよおっ！」

あぁ
はぁ

あぁ
はぁ

はぁ
あぁ

はぁ
あぁ
はぁ
あぁ



「けっ、そんなコワイ顔しても
オシはやめねえせ！このくれえこと
さえてもらわねえと割に合わねえからな」

勘違いしないで下さい！
これだけは言っておきます

…仕方なく身体は許しますが
心までは許していません！

「オシたちやも何百年も
この世界を支配してきた
あのギヤラルホルンを
敵に回してまで
あんた様を地球に
連れて行くんだから」





…はあはあ

「おやおや!? おっかねえ顔して
身体は許してねえとか言ってたけど
その押し殺した声はなんだあーっ?」

「まさか感じてるなんて
ことはないよなあ♡」

ち…違います



あ… ああ！

「スナナリ奥の奥まで
入っていくせーっ♡」

「んん？
アンタのマンコ
だんだん濡れて
きたようだが…？？」



は……
……お願いですから……
もう……やめてください……さっ

「なあおい！わかるか」

「ひやははははっオしのちんぽこ
根元までジュッポリ入って
アంతの子宮とキスしてるせー！」

はっ……
……

はっ……
……

はっ……
……

はっ……
……

はっ……
……

「もう疲れた、後はマンタが腰を使って
オレをイかせてくわよ♡」

「オレのまんまから精子が飛び出るまで
ケツを振り続けるんだ、がんばれ！」

わ わかりました：
あなたが射精したら

…終わりで
よいのですね

「ああ たのむぜお嬢様！」





あーっ♡♡♡

ふあああっ
…あああ!

そ そんなに
激しくしたら…

「じゅわななええ、ちよっと手伝ってやるか!」

「おらおら、そんなんじゃないやあらつまでたっても
オレのちゃんぽんはちよっとも気持ちよくならねえぞ」

あーっ

あーっ♡

あーっ

あーっ♡

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

「コルマッーおまえさんが先にイッてコルマッーなんだ」

「オレ様より先にイッたりしたら
中出ししてやるからなあッ!!」

「わかったかあ? おらッー!」

「…ごめんなさい」

はっはっ

はっはっ

はっはっはっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

膣内に…
中に射精するのは
許してください…



まっ♡

…はいつ!
気持ちいいです

「その間が乳首もマンマン
も濡れ濡れが…」

「正直に言え！ 本当は気持ちいいんだろお？」

「本当のことを言わねえなら
オルクス商会への仲介は
ナシってことにしても
いいんだせえっへへへ」

ほ本当は…ずっと
気持ち…いいですうっ

まっ♡



まっ♡

まっ♡

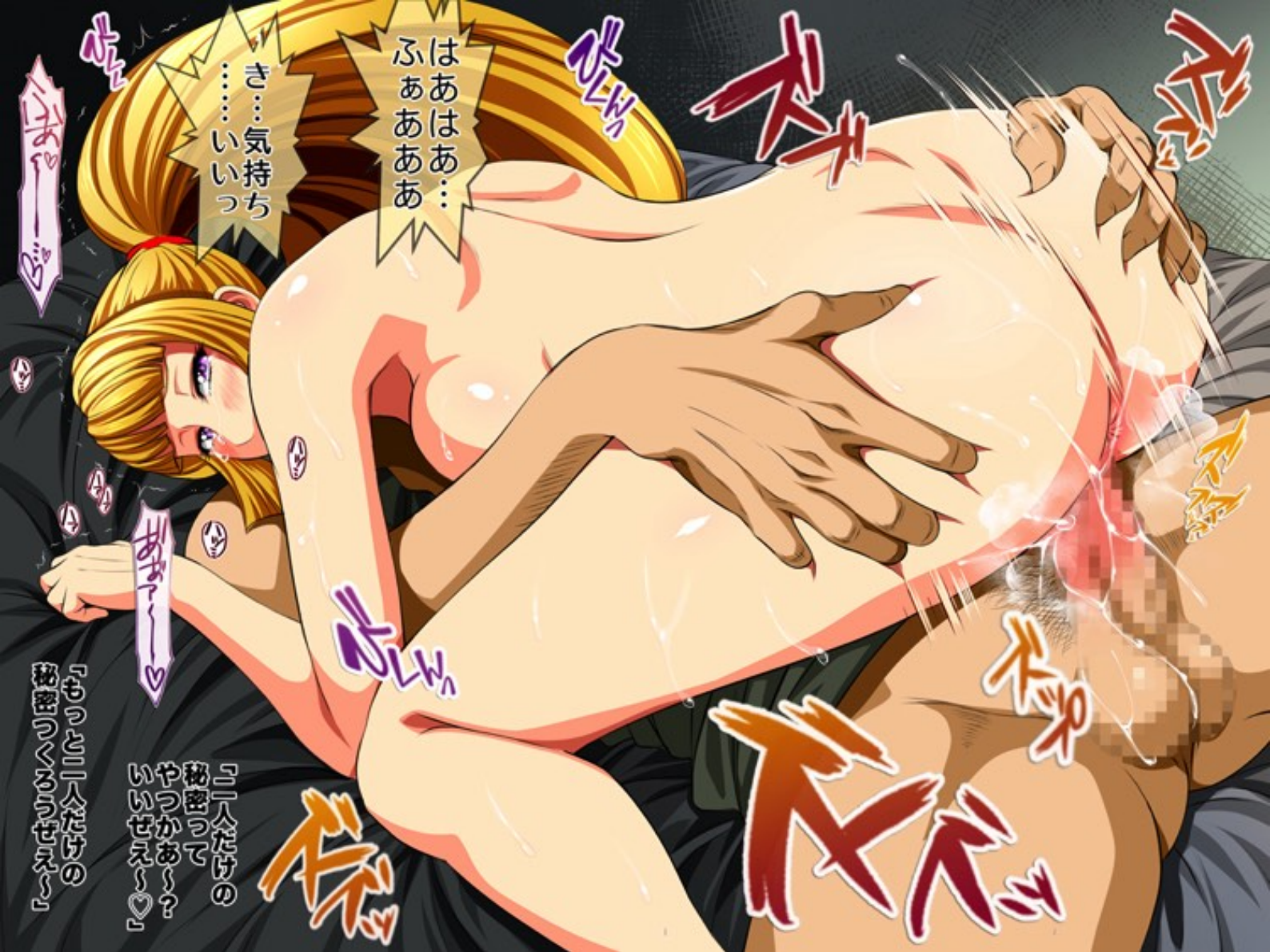


絶対に…秘密に
してください…

…くす、お願いです
わたしがこのような事を
話したことは絶対に…

「もう意地を張らねえぞ」
オレの腹の上でどかどか

「ふひやひやひや
ついに本首が出たなあ
素直なオンナは
大好きだぜえっ」



あまー♡♡♡

き…気持ち
…いいっ

はあはあ…
ふああああ

あまー♡

「もっと二人だけの
秘密っくんとせえ〜」

「二人だけの
秘密って
やつかあ〜？
いいせえ〜♡」

ぐわ

ぐわ

ぐわ

びしょ

びしょ

ぐわ

ぐわ

あま



とっても気持ちがいいですうっ!!

はあ

はあはあはあっ
わわたしのおまんこに

…お おちんちんが何度も
出たり入ったりして…

は

「よしよし、
どこがどう気持ちいいの
ちゃんと言え!」



「うほ、すげえマシコの締め付けた
チンポコねじ切れそうだぜ♡」

…も…もう
ムリ…です
い…く…く…く…く…く…く…
ふ…あ…あ…あ…あ…あ…あ…
い…き…ま…す…う…う…う…う…!!

は…は…は…♡

は…は…は…♡

は…♡

は…は…は…

は…は…は…

は…は…は…

は…は…は…

は…は…は…

これで…気持ち
いいでしょうか？

ここらう…？
ですか…？

「お嬢様のなつかしさを
残りの精子は全集中して
搾り出してあげようか？」

お嬢様！

お嬢様！

お嬢様！

お嬢様！

お嬢様！

お嬢様！



「おふっっっ！
…ん 出る!!」

はあ…
…んんん!


「まったくガキのくせだ
おっぱいといいたいケツとららら
どピンクのつるつるマンマン」
「アイもん持ってやがるせむせむ」

「宇宙に上がるまで毎日頼むせ!
クーデリア・藍那・パーンスタイン
お嬢さま♡」

おっぱい


ケツ



A blonde woman with long hair tied in a ponytail and purple eyes is leaning over a desk, writing in a notebook with a green pen. She is wearing a white shirt that is open at the chest. The background shows a classroom setting with a yellow handrail.

どうして皆さん
次々に前かがみで
「ひとりにしてくれと」
外へ出て行って
しまうのです…？

わたしの授業…
つまらないですか？



…と、取りあえず
開けたドアを
閉めてくださると
喜びます…

なあ 次は
何をすればいい？